

75 明治15年5月9日 菊池長閑

第八号五月九日

去月三十日里帰りも首尾能済安心いたし居候間其許ニ而も安

心可有候先々是にて治り候得は至極なり只入費案外ニ相成候は呉々も申訳無之候里帰り之入費も存外掛り其手際東郷風にて後悔千万なり猶委敷事ハ此内ニ取調可申入候

一 下飯岡所有地近方ニ於て田貳反七畝〇八步宅地三反壹畝廿九步合五反九畝〇七步此小作米七斗四升入五駄片馬ニテ三百五拾円ニ去ル三日買入候(売主八幡丁川守田佐太郎)右は兼而申入置候浅岸村之田地見替地なり依而此節浅岸之方売却ニ取懸り居候

一 東中野村畑地此度好機會有て七拾円ニ売払候近年畑ハ何方も割ニ不合勿論右畑ハ山畑にて□春取調遣通畑代直上ケして三円七拾銭内老円八十銭余課出差引貳円不足之収入なり当年ハハ又課出も嵩之義有之旁所有にして却而厄介物同然故(抹消)其処ヲ見切相談も不致取究候不惡承引有之度候

一 おおちが四月廿九日附ヲ以兼而注文申入候品々調候趣申来□々忝安心致候彼にて不一方手数致候半と一同大慶不斜呉々も厚御礼申候おおちエハ此度無さた致候宜伝言頼入候

一 去ル二日端書ニテ肝油三本下し方取計候趣是又前同人ガ申来候毎度忝未た一本手ヲ付ぬあれハ当月中ニさへ達すれハ宜候御影ニ而養生取続可申大慶ニ候是又厚御礼申入候

一 襟巻裏絹東鳶并三田エ依頼之両品達候事ハ早速申入候筈今程ハ承知ニ可相成と存候

一 一條へ依頼之横田ガ之三十円如何相成候哉受取候ハム早々横田エ可申入候末次郎ハ去月廿六日会津エ着翌廿七日同処出立半沢へ廻り帰ると之一報有之未だ帰着不致此節何れへ廻り居

るや内之病人余り能くもなければ内外之義心配致居候  
一 おすミ義只今分之処ニ而ハ先仕合ニ候豊川なとム違一同悦居候豊川之姑之馬鹿ニハ入り切りたり

一 おすミ用意物ニ付政国ニ大ニ骨ヲ折らせ候ニ付絹ハ丈一反裏絹添呉候序ニ宜挨拶いたし可申候

一 おすミニハ拔られお多代ハ病身おくの手一つにて当年ハ伊□蚕種活用意致たれと他ニ讓廃業ニ候不幸由至極なり

武夫殿

長閑

(封筒表)

「東京三十間堀貳丁目六番地

菊池 武夫 殿」

(封筒裏)

「岩手県盛岡加賀野

八十六番地 (消印?)

五月九日発

(消印) 菊池長閑」

(消印1)

「盛岡・陸中・南岩手・五・九

(消印2)

「東京・一五・五・一六・八」